

## 熱帯のバンコクから

大西 正一郎

九月の声を聞いて、日本は秋の気配が感じられる季節になったのではないでしょう。しかし、この七、八月は例年のない猛暑だったようで日本のWEBニュースが、それも一度ならず、「熱中症で一日に千人を搬送」と伝えていて驚かされました。日本とは比較にならないほど強烈な日射の、ここ熱帯タイなのに熱中症患者が出たなんてニュースが耳に入ってこないのは不思議です。

ということ、改めて彼らの生活振りを観察してみますと、水を頻繁に飲むなということに気づきます。こちらの水道水は飲用としては問題なしとしませんので、飲料用には別途浄化された水を購入します。この数年でいたるところに開店されたコンビニエンス・ストアに駆け込めば、ペットボトル入りの冷たい飲料水を容易、かつ廉価で入手できます。ギラギラ太陽の昼下がりに、バンコクの町を歩けば小さなボトルを手にして歩く人々に大勢出会います。

熱帯で長く生活していると毛穴が開き切ってそこから常時汗が蒸発していく  
そうで、こまめに水を補給してやらないと脱水状態に陥るといふことです。

そのせいか、こちらでは激しい運動でもしない限り日本のように汗が流れ出る、  
滝のように汗が流れ落ちるといふ現象は起きません。テレビでサッカーの試合を  
観戦していると流石に顔中汗だらけになって、試合途中で二度、三度の水分補給  
の中断時間が設けられています。そして、選手にもレフリーにも一斉にボトル  
が配られる風景が一年中見られるのは、やはり熱帯地方ならではないでしょうか。

バンコクを走る電車も、ショッピング・モールも、車内や館内は例外なくガン  
ガンに冷房されております。日本のクール・ビズなんて考え方はここでは微塵  
もありません。それにしても、この冷たさも熱中症防止に効果があるのでしょ  
うか。そんなことはないですよ。きつと “熱帯の人たちが単に冷気を、  
いや寒気を楽しむため” というのが正解かもしれませぬ。しかし、温帯育ちの  
老骨にはこの寒気は堪えます。薄手の上張りを常時携行して自衛に努めてお  
ります。

大してお役にも立たないような情報を並べ立てましたが、来年の猛暑も、その  
次の猛暑も乗り切って長生きしてください。